



患者さんが「笑顔になれる時間」のために、真摯に向き合う

宇治市にあるゆう薬局の女性薬剤師Gさんは70人以上のかかりつけ患者さんをもつベテランです。「患者さんに寄り添える薬剤師」と、病院からゆう薬局に転職して10年、多くの患者さんから慕われています。

この夏、こんなことがありました。80代の本間さん(仮名)は、リウマチの持病があり、医師の要請でGさんが2週間おきに薬を届けがてら、様子を見に訪ねています。ある日、本間さんが体に冷却枕を巻き付けているではありませんか。尋ねると、10日ほど前からコブがふくらみ、冷やしているとのこと。患部を見ると卵大に腫れています。「医師に言いましたか?」とGさんが聞くと、本間さんは首を横に振ります。本間さんは2カ月前に骨折で入院したのですが再入院が嫌で、医師にも看護師にも隠していたのです。「Gさんだから打ち明けたの」と本間さんはうつむきました。

急を要すると判断したGさんは「医師に見せましょう」と本間さんを説得、その場で娘さんに電話をして状況を説明。週明け

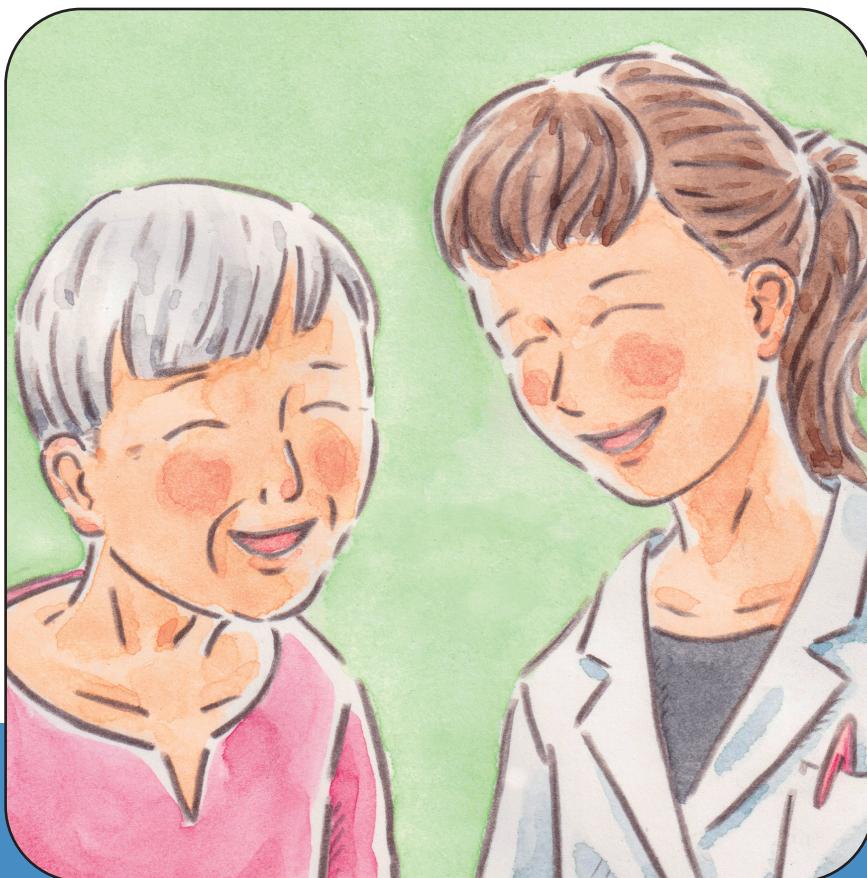
には病院に行く手筈が整いました。

その後しばらくして、娘さんから思いがけない連絡が。「母は進行性のガンでした。今、ホスピスに入院したところです」。ショックを受けたGさん。「もう本間さんに会えないんだ」と涙が止まりませんでした。「思い浮かぶのは本間さんの笑顔ばかり。楽しいおしゃべりが忘れられません」。

Gさんは患者さんと接する際に、心がけていることがあります。「自分には患者さんが100人いても、患者さんにとって薬剤師は私一人」「会っているあいだは不安や悩みを忘れて笑顔になつてほしい」。そうして患者さん一人ひとりに真摯に、笑顔でGさんは向き合います。

「本間さんにとって、私たちゆう薬局が心の支えになつていたと、信じています」。

ゆう薬局では、患者さんと普段の会話を通じて信頼を築き、日常の様子を見守っています。「安心して自宅で過ごしてほしい」。そんな願いを胸に、薬剤師は今日も笑顔で訪問し、地域医療を支えているのです。



なんでも相談できる「ゆう薬局」には、お客さまとの物語があります。

ゆう薬局 ハンケイ500m 物語

vol. 06

豆知識

かかりつけ薬局・
薬剤師とは……

豊富な知識と経験を有し、何でも気軽に相談できて信頼できる、地域に密着した薬局・薬剤師が「かかりつけ」。身边にあると、とっても心強く安心です。

ゆう薬局グループ本部・
宇野薬局

☎075-771-1690(本部)
📍京都市左京区浄土寺下
馬場町106

よりバス停は「錦林車庫前」

KBSラジオ
“サウンド版ハンケイ500m”
の番組内にて、ゆう薬局の
ラジオドラマを放送中!

毎週土曜17時～18時!